

心の栄養剤No145 「最後の大事な仕事」

「次の世代にいのちを伝えていくこと」

この間、一人の男性をお見送りしました。

その方のご家族は最初、病院から療養型の施設を紹介されましたが、そこは家族が泊まり込めないということで、私どもの「かあさんの家」に來られました。

いよいよ最期という時、ご家族やお孫さんを含めて20人くらいが集まりました。血圧が下がり、もうほとんど脈もないほど状態が悪くなっていました。往診の先生も「もうあまり時間がないですね」とおっしゃって帰っていきました。そんな中、長男の方が私に「血圧を上げる注射をしてもらうよう先生に頼んでもらえませんか」と言われました。私はその方に言いました。

「血圧が下がるのは心臓が弱っているからです。おしっこが3日前から出ていないのは腎臓が働いていないからです。**人が亡くなる時、体の機能が少しずつ落ちていくのは普通のことです。**飛行機が着陸する時、車輪を出して着陸態勢に入りますよね。お父さんはいわば、『もうそこに地面が見えているような段階』だと思います。そこでまたエンジンを吹かすようなことをすれば、きっと大事故になってしまいますよ」と。

その方は私の話を黙って聴いておられました。そして「では、もうダメなんですね」と深くため息をつき、お父さんのもとに戻っていかれました。

しばらくして4人のお子さんを連れてこられ、「今僕に話したことを、この子たちにも話してもらえませんか」と言われました。

私は同じように説明し、最後にこう付け加えました。

「今おじいちゃんは、一つひとつ息をしながら一生懸命生きているでしょう。これが本当に『生きている』ということなのよ。おじいちゃんはきっとそれをあなたたちに伝えたいの。だから、目をそらさずにちゃんと見ていてね」

4人は黙って私の話を聴いていました。それから1時間くらいして、おじいちゃんは息を引き取りました。

翌々日がお葬式でした。お孫さんの中で大学生の子がこんなあいさつをされました。

「来週、僕は大学に帰ります。そしたらおじいちゃんのことを忘れるかもしれません。**でもおじいちゃんが一生懸命生きたことは決して忘れません。**僕もおじいちゃんのように、自分に与えられている命を一生懸命生きたいと思います。それから最後まで介護を一生懸命やった親父を僕は尊敬します」

私はとても感動して、「素晴らしいごあいさつでしたね」と言いました。するとお父さんが、「あれは本人が『自分に言わせてくれ』と言いついたんですよ」と話されました。

「次の世代にいのちを伝えていくってこういうことなんだな」と実感しました。

人は死ぬ時に、そういう大きな仕事をしなくてはいけない。だからこそ、その最後の大事な仕事をさせていただくための場が必要なのです。

人は、亡くなると1時間くらいの間表情が変化していきます。だんだん透き通っていき、最後は本当にきれいなお顔になります。

施設でも病院でも、最後の時間はご家族に返していただきたいと思います。

そしてご家族の方は、その人の人生に対して「**本当にご苦労さま**」と**自然に手を合わせるような敬意の心を持って、お見送りをしてほしいな**と思っています。

「**生きざま**」がそのまま「**死にざま**」になると言われます。

きっとこのおじいちゃんは、家族を愛し愛された素晴らしい人生だったんだろうと思います。

私も最後の大事な仕事を少しでも穏やかにこなせるような「生きざま」に心掛けて日々過ごさなくては！！

PS

「**ピンピンコロリ**」という長寿いきいき研究の言葉がありますが「元気に生きて元気に死のう」というのを目標にした研究です。

つまり、元気に生きていないと元気には死ねないという事になります。養生に心掛けて、元氣いっぱい～笑顔いっぱい頑張らしましょう！！

